

## 市文早生、宮本早生の特性比較

松崎重雄・岩永秀人・野方俊秀・江原忠彰・\*中牟田拓史 (佐賀県果樹試験場・\*佐賀県農業大学校)

Shigeo MATSUZAKI, Hideto IWANAGA, Toshihide NOGATA, Tadaaki EHARA and Takushi NAKAMUTA :  
Difference of Characteristics between the Early Ripening Satsuma Mandarin "Ichi fumi" and "Miyamoto"

県内で宮川早生温州の枝変わりとして発見された市文早生は、果形がきわめて扁平で果皮の着色および減酸が早い有望極早生温州である。しかし、宮本早生と外観、品質が著しく類似しており、両系統の特性比較調査を行ったので、その結果を報告する。

### 1. 試験方法

佐賀県果樹試験場 (花崗岩を母材とする砂壤土) の南面向き傾斜地に植栽された、カラタチ台26年生尾張系普通温州4樹 (1樹を1ブロックとして4反復) を中間台木とし、1978年5月17日に市文早生と宮本早生を主枝または亜主枝に10口前後腹接し、樹勢および枝葉、果実の外観、品質等を比較調査した。

### 2. 調査結果

1) 樹勢は両系統間に差がなく、宮川早生に比べ、やや弱い傾向にあった。枝葉の特性については、両系統とも開張性であり、とげの発生はなく、春葉の葉巾、葉長、葉面積、葉柄の長さについても有意な差は認められなかった。

2) 着花は両系統とも多く、開花時期もほぼ同じであった。

3) 果形については、両系統とも幼果期からきわめて扁平で、成熟期では市文早生のほとんどの果実が果形指数

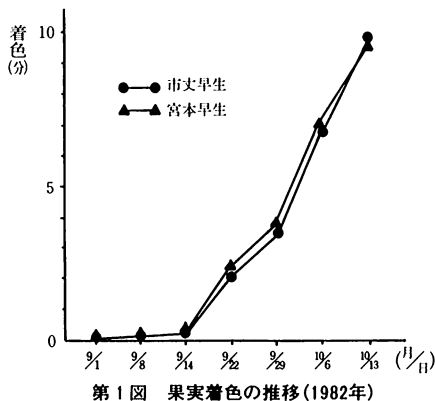
1.4以上となった。一方、宮本早生は1.4未満の果実が多かったが、有意な差は認められなかった。また、天成り果実での果梗部の突出が宮本早生には一部みられたが、市文早生には現れなかった。

4) 果皮の着色については、両系統とも9月上旬に果実全体から淡緑色に退色し、果頂部から黄橙色の着色がはじめた。10月中旬に完全着色となったが、果実の赤道部陽光面の果皮色では、市文早生のほうが宮本早生より紅が濃い傾向にあった。

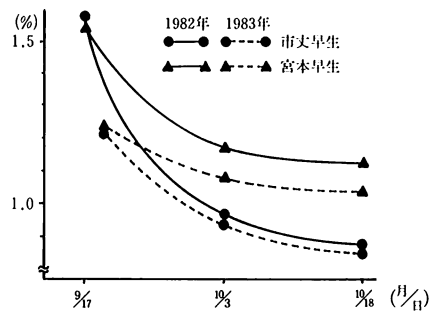
5) 果実比重や果皮歩合については、両系統とも差が認められないが、果皮の油胞密度は宮本早生のほうが市文早生よりも密であり、一次油胞の大きさ (赤道部陽光面) は市文早生が宮本早生より大きく、果面がやや粗い傾向にあった。また、市文早生では、果実が完全着色する前に淡褐色の油胞の点在が確認された。

6) 果盤の直径や果実横径に対する果盤の直径の比についても、市文早生のほうが宮本早生より大きい傾向にあった。

7) 果汁の内容では、市文早生が宮本早生に比べ、着色の進行に伴い、減酸が早い傾向にあった。以上の結果から、市文早生は宮本早生に比較して、樹勢、着花、開花時期、着色推移、果形、果皮歩合、果実比重、Brix などについては有意な差が認められなかったが、油胞密度、一次油胞の大きさ、完全着色時の果皮色、果盤の大きさ、減酸について有意な差がうかがえた。



第1図 果実着色の推移(1982年)



第2図 クエン酸含量推移

第1表 果実分析の内容(1982年10月18日採取、19日分析)

系統名	果実重	果皮歩合	果実比重	油胞密度	一次油胞の直径	果形指数	果盤の直径	果盤/横径	果	皮	色	Brix	クエン酸
	g	%		個/cm <sup>2</sup>	mm		mm	%	L	a	b		
市文早生	129.9	21.6	0.90	44.0	1.29	1.44	9.3	13.3	58.6	20.4	37.8	10.6	0.86
宮本早生	136.3	20.1	0.91	61.1	0.99	1.38	7.2	10.3	62.4	13.9	40.2	9.9	1.16
有意性	NS	NS	NS	**	**	NS	**	**	**	*	**	*	**